

第1～3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時	平成21年11月5日(木) 5～6校時
学 級	第1学年A組, B組(男子38名 女子30名 計68名) 第2学年A組, B組(男子40名 女子15名 計55名) 第3学年A組, B組(男子34名 女子37名 計71名)
場 所	花巻市立湯本中学校 体育館
指導者	第1学年: 田口真弓 柵山徹 阿部直樹 第2学年: 鈴木耕子 富谷伸行 第3学年: 稲垣寛孝 千葉美香 火石博 工藤吉幸 鎌田育子 コーディネーター: 菅原広人

- 1 題材名 「各学年の成果を学び合おう ～総合的な学習の時間をふりかえって」
1学年: 「校外学習における職場体験、および職場体験新聞の発表」
2学年: 「キャリアスタートウィークでの学習から得たもの」
3学年: 「福祉ボランティア体験で学んでいること」

2 題材観

本時は、「中学校学習指導要領」第4章 総合的な学習の時間 第3の1(4)における“自分自身に関すること”および“他者や社会とのかかわりに関すること”にかかわる学習活動である。また、「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」で例示されている「自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践する」「異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する」、「互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する」ことを目指した学習題材であり、本校の研究実践の中核をなす題材ととらえている。これは、研究主題である『生徒の「表現力」を高めるための「総合的な学習の時間」の指導の工夫～各教科等で身に付けた知識・技能等の活用を意識した探究的な学習を通して～』に直結する学習活動の全てが含まれている。

これまで生徒は体験的に学習を深めながら、社会での生き方やあり方を学んできた。そして、まとめや発表を通して、生徒からは「社会で生きていく上で必要なことがいくつかあり、それらは今、日常の学校生活の中で意識して身につけることができる」というような発言が多くみられるようになっている。

本時に先立つ全校学習においても、2学年生徒から「相手のことを思いやる、ということをも今の学校生活でどう表現していくか」という問いかけがなされたり、3学年生徒から「1年生のみなさんが体験した清掃活動は、2, 3年の学校生活でも生かされることであり、働くことの大変さにつながる」という発言が聞かれたりしている。体験をまとめ、発表する中で新たな課題が見えてきた場面であった。

総合的な学習の時間における各学年の体験を生徒の最も身近な社会である学校での生活に生かそうとするこれらの発言を大切に、「いま学校生活で一番大切にしたいもの」という共通課題に対して自らの考えを持ち、異なる意見の存在に気づきつつ、自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践する体験をする中で、生徒一人ひとりの生き方や進路につなげていきたいと考える。

生徒の学びのプロセスは、概ね以下の①～④の通りであり、本題材の位置づけは、④になる。

- ① 各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、
- ② 学年の実態に応じて「探究的な学習」を「協同的に」繰り返す。
- ③ ポートフォリオを通して自らの学びの歩みを自分のものにしながら、
- ④ 学習の成果を相手に分かりやすく伝える「まとめ・表現」を行う。

本時の具体的な学習のあり方は、以下のとおりである。

- 1年生は、校外学習における働く人々からの学びをまとめ、また新聞の形で報告する。
- 2年生は、キャリアスタートウィークの4日間において職場での社会体験・勤労体験を深めながら、現在の生活と職業生活・社会生活の深いかかわりに気付いた。そのことについて学校生活への提言を含めた発表をする。
- 3年生は、校外学習、キャリアスタート、ふれあい研修とさまざまな人々とのコミュニケーションを学習してきた上で今年体験した福祉・ボランティアについて中間発表をする。

各学年とも、本時の題材に対しては、

- ① 学習対象との関わり方や出会わせ方を教師が工夫し設定することで、ねらいにそった課題意識を生徒に持たせた。【課題の設定】
- ② 続いて、自らの課題に基づいた自覚的な情報収集（インターネット、資料など、記号化された情報／友人の体験や他者へのインタビューなど）を進めた。【情報の収集】
- ③ 集められた断片的な情報を関係づけたり、話し合っ整理したりするなどの協同的学習活動を深めた。情報を活用し思考力を用いた場面である。
この場面で各教科等の学習成果が生かされること（知識・技能の関連付け）が多かったと思われる。【整理・分析】
- ④ 学年内において、以上の学習内容を自分自身の考えとしてまとめ、他者に伝える学習活動を行ってきた。自分の課題に基づいた学習を進めてきているので、「自分はどうか」「自分は何ができるか」といった主体性の感じられる発表につながってきた。【まとめ・表現】

本時は、以上の学習成果を他学年の前で発表し他学年の学習成果から学び取りながら、社会での生き方やあり方を学びとらせようとするものである。

ここで大切にしたいのは「誰のために伝えるか」である。相手意識を持った表現を工夫させたいと考える。それによって、伝達のためのさまざまな手法が見られるであろう。

今回の学習は、各学年生徒がそれぞれの学年ごとの体験や学び、学習成果の発表から気づいた「いま学校生活で一番大切にしたいもの」について個人の考えをまとめた上で本時の学習に参加し、それぞれの考えを深めたり、異なる視点から協同的に学ぶ中で新たな課題を見出すことをねらうものである。そしてそこで生まれた新たな課題に取り組みせながら、生徒一人ひとりの生き方・進路課題に迫らせたいと考える。

3 生徒観

各学年とも、総合的な学習の時間を通して「主体的な課題設定能力」「情報の収集能力」「情報の整理・分析能力」「学習内容を表現する能力」が高まってきていることが実感されている。本時は、それらの能力が身に付いてきていることをお互いに確認させることもねらいたい。

また、諸活動において「3学年が適切なリーダーシップをとり、下級生はそんな上級生を目標とする」という望ましい関係が出来ている。本題材において、それぞれの学年の経験や立場に即した発言を引き出すことによって、生徒相互のよりよい関係づくりの一助となり、学校生活が全校一丸となって向上していくことも期待したい。

それぞれの学びから気づいたことを自分なりにまとめ、それを交流し合うことで「自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践する」生徒を育てたい。

4 指導観

本時は「異経験集団が、それぞれの学びを発表し合い、話し合いを通して学び合い、より高い価値観に気づいていく」ことをねらうものである。

1年生は、校外学習活動をまとめて発表し、他学年の発表から来年以降の学習の見通しを持たせると共に、自分とは異なる意見の存在に気づき、それを受け入れたり尊重したりする態度を育てたい。

2年生は、昨年度の経験から1年生に適切なアドバイスをしつつ、3年生の発表からは来年以降の目標や夢を持たせたい。そして、自らの生活のあり方を見直し、他者の考えを受け入れながら課題解決のため日常的に協同的実践を進めようとする態度を育てたい。

3年生には、すべての学習を体験してきた立場を元に、建設的な意見発表を求めたい。さらに進路に向けて自らの課題を明らかにし、それを協同的に解決していく態度を育てたい。

まさに、以下の図が本時の学習活動の中に見られる授業にしたいと考える。

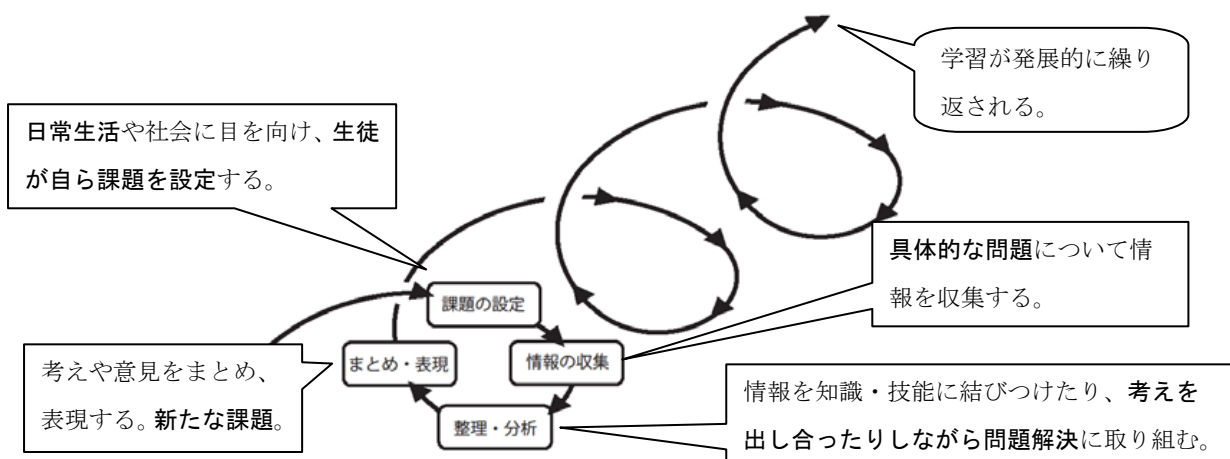


図1 探究的な学習における生徒の姿
(学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」より p13 の図をもとに編集)

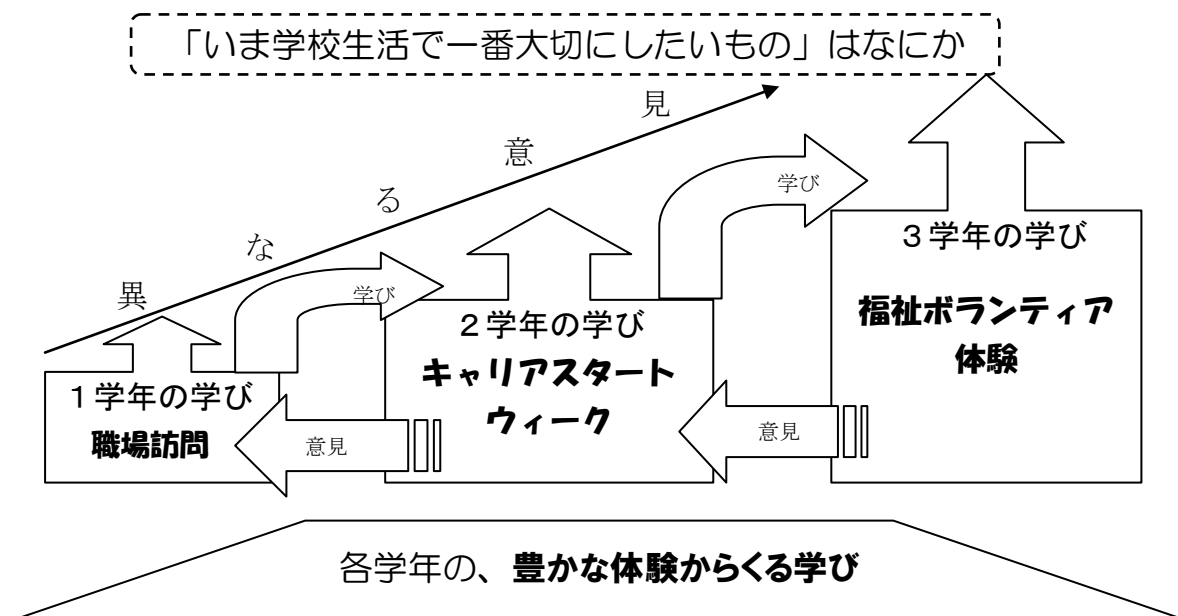


図2 指導構想図

5 指導目標

- (1) 「いま学校生活で一番大切にしたいもの」について、それぞれの学びを元に、根拠を明らかにしてプレゼンテーションさせる。
- (2) 発表の中から自分と異なるさまざまな考えを聞きとることで考えを深め、自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践しようとする意欲を持たせる。

6 本時の評価規準

評価の観点	第1観点 関心・意欲・態度	第2観点 人とかかわる力	第3観点 課題(についての)力	第4観点 情報(についての)力
評価規準 1学年	①発表内容に興味を持って参加し、疑問があれば意欲的に質問という形にまとめられる。	①仲間や先輩の発表を、目と耳を使って学びとろうとする。 ②「学校生活で大切にしたいもの」について自分と異なる様々な意見の存在に気づくことができる。	①各学年の発表の良い点を学びとり、次の自分たちの発表に生かそうとすることができる。	①各学年の発表や話し合い活動から、自分が大切にしたいことを選び出し、まとめることができる。

評 価 規 準	2 学 年	①発表内容を主体的に聞き、自らの体験による意見を述べたり疑問点を明らかにしようとする。	①「学校生活で大切にしたいもの」について体験から得た学びを、根拠を明らかにして発表できる。 ②建設的な意見や本質的な質問を発表することができる。	①各学年の発表から、生活にかかわる課題を見つけ出して、それを主体的にまとめることができる。	①自らの考えと発表を比較し、生活や進路に生かす観点で取捨選択しまとめ、それをまとめた文章で表現することができる。
	3 学 年	①発表に主体的に参加し、後輩に対しては自らの体験等をまとめてアドバイスをしたり、より深い発表を求めて質問を投げかけられる。	①自らの将来の見通しを持ち、後輩への思いを託した助言や意見発表をすることができる。 ②「学校生活で大切にしたいもの」について自らの体験を元に積極的に発信できる。	①自らの考えと各発表を照らし合わせ、生活や進路にかかわる課題として「学校生活で大切にしたいもの」をまとめることができる。	①自らの考えと各発表を照らし合わせ、生活や進路にかかわる課題として「学校生活で大切にしたいもの」をまとめ、根拠をもって発信することができる。

*本校における評価の観点は、各学年の発達段階を考慮して次のように設定している。

評価の観点	第1観点	第2観点	第3観点	第4観点
第1学年	関心・意欲・態度	人とかかわる力	共通課題に取り組む力	課題をまとめる力
第2学年	関心・意欲・態度	人とかかわる力	自ら課題を設定する力	情報を整理し発表する力
第3学年	関心・意欲・態度	人とかかわる力	課題を設定し、追求する力	情報を選択し発信する力

*留意点等

第1・第2観点は本校の総合的な学習の時間の基礎・基本ととらえ、各学年共通である。

第3・第4観点については、学年が進むにつれて次のような意図を持たせてある。

第3観点については、

第1学年では、全員に共通した課題を与え、その中で個々のテーマを設定させる。

第2学年では、いくつかある課題の中から自分で主体的に選択・決定する。

第3学年では、さまざまな情報の中から自分の興味関心に基づいて課題を設定する。

第4観点については、

第1学年では、自分の学びを、それに最もふさわしい形でまとめる。

第2学年では、情報の収集能力をつけさせつつ、それに思考力を加えた発表をさせる。

第3学年では、必要な情報を選び出し、まとめ、より広い対象に向けて発表していく。

7 指導と評価の計画

(1) 評価規準

① 第1学年

観点	第1観点	第2観点	第3観点	第4観点
	関心・意欲・態度	人とかかわる力	課題を設定し追求する力	情報を選択し、発信する力
評価規準	<p>①興味を持って学習活動に参加することができる。</p> <p>②自分の質問・意見をまとめることができる。</p>	<p>①相手の話をよく聞き、コミュニケーションをとろうとする。</p> <p>②異なる意見にも耳を傾けることができる。</p>	<p>①全員に共通したいくつかの課題の中から自分の課題を見つけ、取り組むことができる。</p> <p>②課題をもとに学んだ内容を深めようとする。</p>	<p>①調べたことや発表を聞いてわかったことから、自分の知りたいことをまとめることができる。</p>

② 第2学年

観点	第1観点	第2観点	第3観点	第4観点
	意欲・関心・態度	人とかかわる力	自ら課題を設定する力	情報を整理し発表する力
評価規準	<p>①自ら進んで考えることができる。</p> <p>②自分の意見・質問を意欲的に発表できる。</p> <p>③積極的に調査活動を行うことができる。</p>	<p>①あいさつ、返事ができ積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>②仲間と協調して取り組むことができる。</p> <p>③わからないことはそのままにせず聞くことができる。</p>	<p>①必要な情報を整理して、課題を設定することができる。</p> <p>②筋道を立てて、物事を考えることができる。</p>	<p>①課題解決のための情報を集め、適切にまとめることができる。</p> <p>② 伝えたいことは何か明らかにして、聞き手を意識した発表ができる。</p>

③ 第3学年

観点	第1観点	第2観点	第3観点	第4観点
	関心・意欲・態度	人とかかわる力	課題を設定し追求する力	情報を選択し、発信する力
評価規準	<p>①自ら進んで考えることができる。</p> <p>②自分の意見・質問を意欲的に発表できる。</p> <p>③積極的に調査・まとめ活動を行うことができる。</p>	<p>①相手に対して挨拶・返事など積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>②様々な人との交流を通し、それぞれの人々の立場を理解することができる。</p> <p>③相手の立場になって活動し、交流を深めようとするができる。</p>	<p>①必要な情報をもとに理論的に課題を設定することができる。</p> <p>②活動をもとに学んだ内容をさらに深めようとするができる。</p> <p>③活動を振り返り人とのかかわり方について具体的に考えることができる。</p> <p>④様々な人の立場について理解を深め、自らの生活や将来的な生き方について具体的な見通しを持つことができる。</p>	<p>①課題解決のための情報を整理し、習得した知識・技能を適切に活用し、まとめることができる。</p> <p>②自分の考えや伝えたいことをその理由を明らかにして、わかりやすく他集団に対して発表することができる。</p>

(2) 評価計画

* 評価方法欄のPFは、ポートフォリオを示す

① 第1学年

学習活動	時数	累計	単元ごとの評価規準との関連	評価方法
総合的な学習の時間オリエンテーション	1	1	1-①	挙手 発言 PF
校外学習オリエンテーション	1	2	1-①	挙手 発言 PF
職場体験先決定・テーマ決定	1	3	1-① 3-①	挙手 発言 PF
事前学習① 体験先職場について調べよう	1	4	1-①② 3-② 4-①	観察 PF
事前学習② テーマについて調べよう	2	6	1-① 3-② 4-①	観察 PF
テーマ別事前学習発表会資料作成	1	7	1-①② 3-② 4-①	観察 PF
テーマ別事前発表会	1	8	1-①② 2-①② 3-② 4-①	挙手 発言 観察 PF
盛岡校外学習	6	14	1-① 2-① 3-②	観察 PF
事後学習発表会資料内容検討	1	15	1-① 2-①② 3-② 4-①	観察 PF
事後学習発表会資料作成	4	19	1-①② 2-① 3-② 4-①	観察 PF
テーマ別事後学習発表会準備	1	20	1-① 2-①② 3-② 4-①	観察 PF
テーマ別事後学習発表会	1	21	1-① 2-①② 3-② 4-①	挙手 発言 観察 PF
事後学習学年発表会	2	23	1-① 2-①② 3-② 4-①	挙手 発言 観察 PF
全校交流発表会	1	24	1-① 2-①② 3-② 4-①	挙手 発言 観察 PF
全校総括発表会	2	26	1-① 2-①② 3-② 4-①	挙手 発言 観察 PF

② 第2学年

学習活動	時数	累計	単元ごとの評価基準との関連	評価方法
総合的な学習の時間オリエンテーション	1	1	1-①	挙手 発言 PF
人はなぜ、働くのか	1	2	1-①	挙手 発言 PF
人はなぜ、学ぶのか	1	3	1-①	挙手 発言 PF
身近な職業	1	4	4-①	挙手 発言 PF
職業と産業	1	5	4-①	挙手 発言 PF
職業と適性(適性検査)	2	7	1-①	挙手 発言 PF
ケアハウス訪問に向けて	2	9	2-② 3-①	観察 PF
ケアハウス訪問	2	11	2-①、②	観察 PF
ケアハウス訪問のまとめ	1	12	1-①、3-①	PF
キャリアスタートテーマ作り	1	13	3-①、②	PF
職場体験事前学習	3	16	1-①、③	観察 PF
職場体験	16	32	2-①、②、③	観察 PF
職場体験中間まとめ(発表会)	5	37	1-①、② 4-①、②	挙手 発言 PF
職場体験のまとめ	4	41	1-① 2-②、4-①	PF
職場体験総括発表会	3	44	1-② 2-③ 4-②	挙手 発言 PF
ケアハウス訪問に向けて	1	45	2-② 3-①	観察 PF
ケアハウス訪問	2	47	2-①、②	観察 PF
ケアハウス訪問のまとめ	2	49	1-①、3-①	PF
全校交流発表会	1	50	1-①、② 4-①、②	挙手 発言 PF
全校総括発表会	2	52	1-①、② 4-①、②	挙手 発言 PF

③ 第3学年

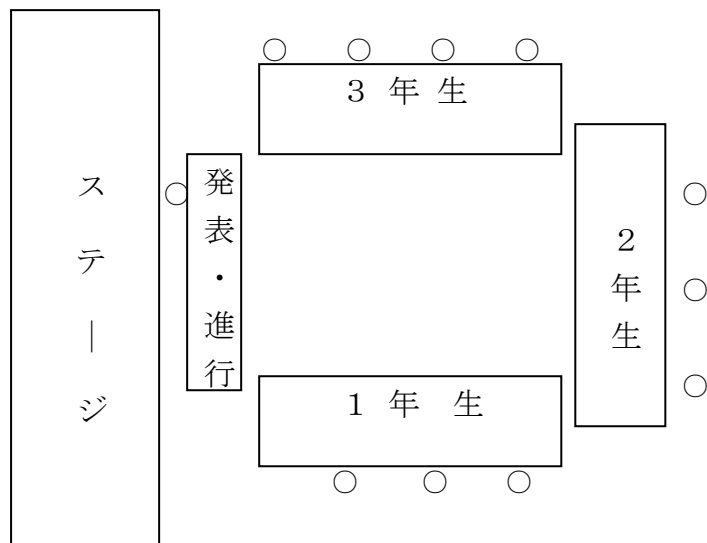
学習活動	時数	累計	単元ごとの評価規準との関連	評価方法
総合的な学習の時間オリエンテーション	1	1	1-①	挙手 発言 PF
共に生きることとは	2	3	1-①、2-②	挙手 発言 PF
キャリア訪問①	2	5	1-①、2-①②	観察 PF
個人テーマの作成 希望調査	1	6	1-①、3-①②	挙手 発言 PF
キャリア福祉体験に向けて	3	9	1-全、2-②③、3-①	挙手 発言 PF
キャリア福祉体験①	2	11	1-①、2-全、3-②	観察 PF
中間まとめ	2	13	1-全、2-②③、3-②、4-全	挙手 発言 PF
キャップハンディ体験	2	15	1-①、2-②、3-②	観察 PF
キャリア福祉体験②	2	17	1-①、2-全、3-②	観察 PF
個人レポートのまとめ	1	18	1-①③、3-③④、4-①	挙手 発言 PF
テーマ別グループ発表会	2	20	1-①②、2-②、3-③④ 4-全	挙手 発言 PF
学年発表会準備	2	22	1-②③、4-全	観察 発言 PF
学年発表会	2	24	1-①②、2-全、3-②③ 4-②	挙手 発言 PF
全校発表会へ向けて	2	26	1-②③、4-全	観察 発言 PF
全校交流発表会	1	27	1-①②、2-全、3-②③④ 4-②	挙手 発言 PF
全校総括発表会	2	29	1-①②、2-全、3-②③④ 4-②	挙手 発言 PF

8 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① 「いま学校生活で一番大切にしたいものは何か」について、それぞれの学びを元に根拠を明らかにしてプレゼンテーションする。
- ② 発表の中から自分と異なるさまざまな考えを聞きとることで考えを深め、自らの生活のあり方を見直し、日常的に実践しようとする意欲を持つ。

(2) 学習隊形 生徒総会隊形に準ずる。○は、およその教員の配置



(3) 教材・教具等 パソコン、各学年発表のレジュメ及びまとめプリント、総合ファイル

(4) 本時の展開

*「学年ごとの指導・支援」における1,2,3はそれぞれ学年を示す。

段階	生徒の学習活動	コーディネート上の留意点及び工夫	学年ごとの指導・支援	評価方法
導入 5分	1. 進行係の進行で授業を始める。コーディネーターの話から、本時の目標をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5分前行動・2分前学習の工夫により、集会への集中力と意欲を作り出す。 ○ 進行係との事前準備を入念に行い、緊張感ある授業への導入を行う。 ○ 本時の学習課題が「いま学校生活で一番大切にしたいものは何かを明らかにしよう」であることをつかませる。 	担任：生徒後方で適宜指導にあたる。 副担任：下位生徒への指導を中心として、担任補佐を行う。	観察法 ポートフォリオ

	生徒の学習活動	コーディネート上の留意点及び工夫	学年ごとの指導・支援	評価方法
展開 70分	<p>2. 「いま学校生活で一番大切にしたいもの」は何だと考えるか、それぞれの学びを元に根拠を明らかにしてプレゼンテーションする。</p> <p>聴取者は、疑問質問、意見提言を持ち、自分が考えと照らし合わせながら発表を聞く。</p> <p>(1) 第1学年—話し合い (2) 第2学年—話し合い (3) 第3学年—話し合い 【各学年発表 10 分程度】</p>	<p>○ 話し合いを深めるため、進行係及びグループ討議指導を重視する。</p> <p>○ グループ討議に際しては、プレゼンの内容を元に弾力的に時間を運用する。また、話し合いの場所や形態なども、話し合いの内容に応じ適宜工夫する。</p>	<p>1-(1) 発表内容に興味を持って参加し、疑問は意欲的に質問にまとめさせる。</p> <p>(2) 「学校生活で大切にしたいもの」について自分と異なる意見の存在に気付かせるよう、支援する。</p> <p>(3) 次の発表に生かせるよう、各学年の発表の良い点を学び取らせる。</p> <p>2-(1) 発表を主体的に聞き、体験よる意見を述べたり疑問点を明らかにさせる。</p> <p>(2) 「学校生活で大切にしたいもの」について体験から得た学びを、根拠を明らかにして発表できるように支援する。また、建設的な意見や本質的な質問を発表できるようにさせる。</p> <p>(3) 各学年の発表から、生活にかかわる課題を見つけ出して、それを主体的にまとめることができるように支援する。</p> <p>3-(1) 発表に主体的に参加し、後輩に対しては自らの体験などをまとめてアドバイスをしたり、より深い発表を求めて質問を投げかけさせる。</p> <p>(2) 自らの将来の見通しを持ち、後輩への思いを託した助言や意見発表をすることができるようにする。また、「学校生活で大切にしたいもの」について自らの体験をもとに積極的に発信させる。</p> <p>(3) 自らの考えと各発表を照らし合わせ、生活や進路にかかわる課題として「学校生活で大切にしたいもの」をまとめることができるようにする。</p>	<p>観察法（同上）</p> <p>ポートフォリオ</p>
終末 25分	<p>3. 本時の学習を通して考えを深めた「いま学校生活で一番大切にしたいもの」について、自分の体験や根拠を元にまとめて発表する。</p> <p>4. 自らの新たな課題と実践の意欲を持つ。</p>	<p>○ 生徒個々の変容を明らかにし、主体的発表を大切にしたい場面である。思考及び言語におけるまとめを深めるため時間にゆとりを持って進行する。</p> <p>○ 学年の発達段階に応じたまとめ・発表の中から自らの生活のあり方を見直し、日常的な実践につなげる意欲を持たせたい。</p>	<p>1-(1) 各学年の発表や話し合い活動から、自分が大切にしていることを選び出し、まとめさせる。</p> <p>2-(1) 自らの考えと発表を比較し、生活や進路に生かす観点で取捨選択してまとめ、それをまとめた文章で表現できるようにさせる。</p> <p>3-(1) 自らの考えと各学年の発表を照らし合わせ、生活や進路にかかわる課題として「学校生活で大切にしたいもの」をまとめ、根拠をもって発信させる。</p>	<p>観察法（同上）</p> <p>ポートフォリオ</p>

『いま学校生活で一番大切にしたいことは何か』自分の考えを深めよう！

年 組 番 _____

私がいま学校生活で一番大切にしたいこと

(そう考えた理由を、自分の体験からまとめて書いておこう)

授業に参加したあとの自分の考えと、そう考えたわけ